

平成15年度

浪岡町文化財パトロール調査概報

1 調査経過

今年度の文化財パトロール調査は、青森県重宝に指定されている旧坪田家住宅、円空作木造観音菩薩坐像2軀、浪岡町指定文化財である楊子杉及び源常林の銀杏、埋蔵文化財包蔵地21遺跡を対象とし、下記の日程と体制で実施した。

なお、平成15年1月に町内毎戸回覧により、「遺跡保護のお願い」を配布して、埋蔵文化財包蔵地の周知を行なった。

調査の原因	青森県文化財パトロール事業		
調査回数	5回 9月2日・9月9日・9月30日・10月24日・10月31日		
調査員	青森県文化財保護指導員	成田昭美	
調査事務担当部局	浪岡町教育委員会		
	教 育 長	成 田 清 一	
	生涯学習課長	常 田 典 昭	
	課 長 補 佐	鎌 田 廣	
	文 化 班 長	工 藤 清 泰	
	文化班主任主査	小田桐 勝 昭（文化財パトロール調査担当）	
	文化班主任主査	木 村 浩 一	
	臨時発掘調査員	竹ヶ原 亜 希	
調査対象遺跡等 （位置図参照）	下記26件。パトロール調査中に得られた遺物については、浪岡町中世の館で保管している。 付図に、調査位置を表記するにあたり、仮番号をつけて整理している。		

2 パトロール調査を行った指定文化財・遺跡（カッコ内は遺跡番号）

1）県重宝及び町指定文化財

① 旧坪田家住宅（県重宝・建造物 浪岡町管理）

本住宅はかつて青森空港に隣接する王余魚沢地区にあった建物で、古民家の保存を目的として、現在浪岡町中世の館敷地内に移転・復原している。正確な建築年代は不明であるが、構造の特徴から江戸時代末期の建物とされる。平成15年4月の暴風により建物背面に拡張した底部分の桁屋根がき損しているため、早期に修理をする必要がある。

② 円空作木造観音菩薩坐像（県重宝・彫刻 西光院所有）

江戸時代初期の寛文年間に、円空が制作したものと言われる。指定前からの欠損補修部分はあるが、現在の保存・管理状態に問題はない。

③ 円空作木造観音菩薩坐像（県重宝・彫刻 元光寺所有）

江戸時代初期の寛文年間に、円空が制作したものと言われる。現在の保存・管理状態に問題はないが、過去、山頂の釈迦堂に安置されていた際に仏像を鉄釘で補強しており、この部分に錆による損傷、及び虫害痕が見られるため、早期に保存・修理をする必要がある。

④ 源常林の銀杏（町指定 天然記念物）

津軽山唄のもと唄として伝わる一節に「浪岡の源常林の銀杏の木は、枝は浪岡、葉は黒石、花は堀越の城で

咲く」とある銘木である。現在特に問題はないと思われる。

⑤ 楊子杉（町指定 天然記念物）

羽黒神社境内に根ざす大樹で、美人川伝説（都から来た姫が顔を洗った清流を美人川と呼び、お齒黒に使った楊枝が根付いて楊子杉となり、この場所を羽黒神社と呼ぶようになった、という伝説）に表れ、天和絵図にも描かれている。町文化財指定時に樹木治療を行なっている。一帯は町民の憩いの場、美人川公園として整備されている。

2）正平津川流域の丘陵地に位置する遺跡

⑥ 正平寺遺跡（29033）

正平津川右岸の台地上に土塁、堀を巡らせた地形が見られる。果樹園、畑として利用され現状は維持されている。縄文土器、土師器片を表採した。

⑦ 細野遺跡（29034）

正平寺遺跡に隣接し、相沢神社裏手の丘陵地に位置する。畑、山林として利用され現状は維持されている。縄文土器、石器、土師器片を表採した。

3）浪岡川流域の丘陵地に位置する遺跡

⑧ 強清水館遺跡（29053）

16世紀、浪岡北畠家臣であった強清水恵林^{こわしみずけいりん}が拠った中世城館とされる。遺跡台帳に記載されている地図と照らし合わせながら踏査を行ったが、場所・範囲を特定できなかった。周辺は果樹園、山林として利用されている。

⑨ 屋形森遺跡（29032）

王余魚沢集落から通称「奥山」へ入る右手の山林と思われるが、範囲を特定できなかった。山林の入り口に土地所有者が周辺に伝わる伝説の説明板、遊歩道、水飲み場などを整備している。

⑩ 王余魚沢（1）遺跡（29029）

浪岡川右岸の河岸段丘上に位置し、宅地、果樹園等として利用されている。現在のところ開発計画はなく、現状は維持されている。

⑪ 王余魚沢（2）遺跡（29030）

遺跡台帳に記載されている地図と照らし合わせながら調査を行ったが、場所・範囲を特定できなかった。遺跡と思われる場所は山林として利用され、現状は維持されている。

4）本郷川流域及び八甲田山から連なる丘陵地に位置する遺跡

⑫ 牧ノ沢遺跡（29046）

本郷ダムの右岸、牧ノ沢と田ノ沢が合流する東側の山林一帯である。開発計画が少ない地域であり、現状は維持されている。

⑬ 田ノ沢遺跡（29042）

遺跡と思われる場所は果樹園として利用されている。果樹園耕作者が、畑から出土したと思われる縄文土器片を教育委員会に届け出ている。

⑭ 篠原遺跡 (29041)

本郷集落北側の丘陵地で、果樹園として利用されている。昨年度発掘調査を行った中屋敷遺跡（『紀要Ⅲ』にて報告）の北東斜面に位置する。遺跡内に農道整備が計画されているため、平成16年度に発掘調査を予定している。畑部分から須恵器片を表採した。

⑮ 吉内遺跡 (29039)

中世城館とも言われ、吉内川左岸に一段高い曲輪状の地形が広がる。昨年度発掘調査した中屋敷遺跡に隣接し、篠原遺跡から延びる農道の新設が計画されているため、平成16年度に発掘調査を予定している。

⑯ 博奕打ヶ沢遺跡 (29037)

高台にある果樹園の窪地が、周囲から見えないような地形となっている。果樹園として利用され、現状は維持されている。

⑰ 本郷遺跡 (29043)

遺跡内に大銀杏がある。宅地、畑として利用され、現状は維持されている。平成12年度に所在地、遺跡範囲の確認を行なった際、遺跡の年代的な違いから本郷館遺跡部分を分離し、範囲を縮小した経緯がある。

⑱ 本郷館遺跡 (29069)

広さは東西南北約80m四方で、舌状台地の東側は人工の堀（現在は一段低くなっている共同墓地）で区切られていたと思われる。また、南側を流れる本郷川は、天然の堀として機能していたと考えられる。北側は一部水田になっているが、堀跡と思われる。現在は果樹園、宅地、共同墓地等として利用され、現状は維持されている。青磁（碗）、中国製染付（皿）片を表採したことにより、中世城館であった可能性を想定することができた。

5) 大釈迦川右岸の河岸段丘上に続く遺跡

⑲ 大釈迦館遺跡 (29048)

外ヶ浜の押さえとして浪岡城の北方を防御した中世城館跡と言われ、地元では「館の畑」と呼んでいるが、中世の遺物は表採されていない。水田を流れる大釈迦川右岸に曲輪と思われる地形が見られる。水田、畑として利用され現状は維持されている。

⑳ 山元（2）遺跡 (29055)

大釈迦川右岸から西側へ延びる低丘陵地で、果樹園として利用され現状は維持されている。平成16年度中に、国道7号バイパスが全面開通する予定であるため、遺跡周辺の開発が急激に進むことが予想される。今後、一層埋蔵文化財の周知徹底をはかる必要がある。土師器片を表採した。

6) 梵珠山から南側へ延びる丘陵地の西側に位置する遺跡

㉑ 下下平遺跡 (29004)

範囲は特定できなかったが、南側は吉野田新溜池に面する一帯である。果樹園として利用され現状は維持されている。畑部分から縄文土器、土師器片を表採した。

㉒ 旭（1）遺跡 (29005)

一面果樹園として利用されているため、遺物の表採はできなかった。開発計画もなく現状は維持されている。東側は吉野田新溜池に面している。

㉓ 旭（２）遺跡（29006）

旭（１）遺跡に隣接し、吉野田新溜池と三太溜池に挟まれた部分である。開発計画もなく果樹園として利用され、現状は維持されている。縄文土器片を表採した。

㉔ 中平遺跡（29007）

南側は熊沢溜池に面し、宅地、学校、果樹園として利用されている広い範囲である。平成15年度農道整備に伴う発掘調査が行なわれた。土師器片を表採した。

㉕ 蛭沢遺跡（29008）

吉野田新溜池と三太溜池下流の合流する沢地に面し、東側へ旭（１）、旭（２）遺跡へと続く。果樹園、畑として利用され現状は維持されている。縄文土器、土師器片を表採した。

㉖ 寺屋敷平遺跡（29059）

現在は一面果樹園として利用される。遺跡の西側は吉野田新溜池に面し、南北は沢地が入り込んでいる。平成15年度農道整備に伴う発掘調査が行なわれた。土師器、須恵器片を表採した。

3 新発見の遺跡

㉗ 浪岡城遺跡（29073）

当該地は、史跡浪岡城跡の隣接地である。平成15年度浪岡八幡宮付近から五本松地区まで実施された下水道工事に伴い、教育委員会が発掘調査を行った結果、古代・中世の遺物（土師器・陶磁器）や遺構（建物跡・溝跡など）が確認された。このため、史跡指定地境界の主要地方道青森浪岡線と、北側の鷲谷堰までの範囲を浪岡城遺跡（浪岡八幡宮も含む）として登録した。

㉘ 岡本遺跡（29074）

周辺を史跡浪岡城跡と加茂神社遺跡、羽黒平（１）遺跡に囲まれた一帯である。平成15年度に実施された下水道工事に際し、教育委員会が立会い調査を行った結果、古代・中世の遺構（建物跡・井戸跡など）や遺物（陶磁器・鉄製品など）が確認された。このため、東端を羽黒平（１）遺跡の西端である苗代堰とし、南端・西端を鷲谷堰とする一帯を岡本遺跡として登録した。

浪岡町文化財パトロール調査箇所位置図

